

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1274000213		
法人名	特定非営利活動法人おたがいさま		
事業所名	グループホームおたがいさま		
所在地	千葉県富里市御料694番地3		
自己評価作成日	平成23年8月1日	評価結果市町村受理日	平成23年10月21日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成23年8月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人一人の思いを尊重し、希望や願いをかなえられるよう家族や地域と協力し、柔軟に対応できる取り組みを心がけている。自治会に入り地域 夏祭りや回覧板を通しての行事に参加している。運営推進会議を活用し意見交換等を通して、その人らしい生活が送れるよう支援している。利用者様の残存機能維持していく為に、理学療法士指導のもとリハビリを行っている。質の向上・介護力向上、資格取得、知識習得の為に内部・外部での勉強会や研修に参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム おたがいさま」は、理念に個人の尊重を掲げており、一人ひとりの尊厳を大切に支援が行われている。入居者とコミュニケーションを図りながら個々の嗜好・希望を汲み取り、時には個別に外出する等、その人らしい生活が送れるよう努めている。近年、機能訓練士の指導のもと、リハビリプログラムを作成し、刺激と活気があるリハビリテーションを行っている。今後も工夫を凝らしながら、入居者の身体機能の維持・向上だけでなく、生活の活性化に繋げていけるよう取り組んでいる。施設として職員の資格取得やスキルアップに力を入れており、継続して職員の質の向上に取り組んでいる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誰もが理念を共有してはいないが大まかに理解している	法人理念として「3つの理念ふくろう」を掲げ、職員の質の向上・入居者の意思の尊重・地域に溶け込む事を主眼としたサービスの実現を目指している。理念においては、パンフレットに明記すると共に、事業所内に掲示し、職員や来訪者等に周知している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会、地域行事への参加	日頃から地域住民とは、挨拶を交わす関係が築かれていると共に、見学・訪問・相談を随時受け付け、施設の理解促進に努めている。夏祭り等の地域行事には積極的に参加しており、地域との交流を図っている。また、地域の研修会に講師を派遣しており、地域に根差した施設運営に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献についてはあまり出来ていない		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で話した内容を共有しサービスにつなげている	市職員・民生委員・家族・職員・介護相談員等を構成員として、2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、施設の活動報告や意見・情報交換を行い、施設の理解促進に繋げている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者情報共有し協力している	日頃から市に対して業務における相談・報告等を随時行っており、連携を図っている。地域の困難事例を市に繋げる等、市と共同で問題解決に取り組んでいる。また、月に1回市の介護相談員が来訪し、意見・情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。	現在、市との連携は図られているが、今後は、市の意見を確認しながら、他のグループホーム施設との意見・情報交換等の機会を設ける事を実現し、更なるサービスの質の向上に取り組んで頂く事を期待します。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてマニュアルをもとに職員全体で理解している	身体拘束排除における施設理念を掲げ、身体拘束を絶対に行わないケアの実践に取り組んでいる。日中は玄関の施錠を行わないと共に、個々の生活ペースや希望に合わせた支援を行っており、入居者の自由な生活を提供している。	施設の方針として、「身体拘束を行わない」旨を理念として掲げているが、再度、職員全員へ身体拘束排除に向けた知識や理解を深めるためにも研修を実施する事を望みます。

【千葉県】グループホーム おたがいさま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	介護計画を作成する際に、高齢者虐待防止法を考慮し、自立支援が可能となるように配慮している。また、期間を定めた、担当制による介護計画への全員参加を図ることによって、個々の職員の虐待に対する認識を明確化し、日々、防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通して知識としては習得していますが、実際に活用できるまでは至っていない		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の悩み相談を聞きながら説明している		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画を作成する際に、高齢者虐待防止法を考慮し、自立支援が可能となるように配慮している。また、期間を定めた、担当制による介護計画への全員参加を図ることによって、個々の職員の虐待に対する認識を明確化し、日々、防止に努めている。	家族の面会時や電話連絡時に直接意見・要望等を確認すると共に、家族会を設置しており、家族との意見交換の場を設けている。挙がった意見や要望においては、すぐに職員全員へ通達し、会議等で改善策を検討している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議を通して職員の意見や提案を聞く機会を設けてる	定期的に会議を開催し、職員からの意見や提案を確認する場を設けている。また、管理者は個別に職員と話をする機会を設けており、個々の思いや意見を把握している。職員主導のやりがいある職場づくりがなされていると共に、資格取得に向け、幹部職員が講習を開く等、労働環境の整備に努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所の規定に基づいて給与水準を決めている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修で学んだことを研修報告等を通して職員間で共有している		

【千葉県】グループホーム おたがいさま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度他施設との交流は行っていない。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃の会話や行動など些細なことに注意を払い安心して生活できるよう配慮している		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の気持ちも踏まえた上での生活の様子を説明し、安心して生活できるよう配慮している		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族会議や面会にきた際に家族本人と職員の話し合いを通して必要とする支援を見極め対応に努めている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の出来る事を考察し、日常生活において家事、炊事、洗濯等共に参加できるよう努めている。又自発的に行動してくれるような信頼関係、環境作りに努めている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との架け橋を切らないよう家族参加のイベント行事をおこなっている(家族会や誕生会等)		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室を利用したり、本人の住んでいた地区の祭りに参加している。	馴染みの人との手紙や電話のやりとりを支援すると共に、個々の希望に応じた場所へ個別に外出する機会を設けており、馴染みの場への関係継続も支援している。また、家族との外出・外泊・行事参加は自由となっており、家族との関係継続も支援している。	

【千葉県】グループホーム おたがいさま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の共通の趣味や話題を見つけ一緒にいたり、コミュニケーションをとれるよう気の合う利用者関係を把握し孤立しないような環境づくりに努めている		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した利用者様の事も気かけ近くに行った際など様子を伺いに立ち寄るようにしている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各担当職員が思いや希望などを把握している。また会議で他の職員にも繁栄させている。意思表示出来ない人でも、生活歴や家族の思い希望を取り入れている	契約時に本人・家族から意向を確認すると共に、医師や他事業所からも情報を収集し、より詳細な情報の把握に努めている。職員は居室担当制を導入しており、担当職員が中心となって、入居者の意向・嗜好・生活歴等を把握している。新たな情報は、記録の閲覧・会議を通じて全職員で共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の今までの暮らし方など、本人家族を通して把握し、なるべく生活環境を変えないよう配慮している		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の経過観察を時間ごとに細かく記録している。日常生活上気になる事は記録に残し全職員把握できるように努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子を記録に残し、会議にて介護の方向性について話し合い、意見やアイデアを出し合っている	確認した情報を基に、会議にて意見・情報交換をし、介護計画の作成を行っている。定期的に目標の達成状況の確認や評価を行い、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。家族からの意見・要望は随時確認しており、入居者・家族の意向に沿った介護計画の作成に努めている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を日誌に記載し職員間でも情報を共有している		

【千葉県】グループホーム おたがいさま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な範囲の中でその人に沿った工夫を心がけて支援するように取り組んでいる		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所に買い物にいたり、散歩に行ったり楽しみを持って生活できるよう支援している		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携の病院、かかりつけ医に定期的に受診し経過報告し指示を仰いでいる	希望のかかりつけ医への受診を支援していると共に、要望に応じて、職員が受診の付き添い支援を行っている。必要に応じて、内科往診が行われており、適切な医療支援が行われている。また、非常勤の看護師職員や併設のデイサービスの看護師と連携し、適切な健康管理が行われている。その他にも、機能訓練士の訪問も行われており、身体機能の維持・向上が図られている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化など心配事がある時、看護師とは密に連携をとり情報を共有している。看護師不在の時も電話にて指示が仰げる体制をとっている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前の状態など必要な情報をまとめ病院や家族に報告している。入院中の利用者様の面会に行き情報交換に勤めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	会議を通して、ホームでの対応が可能であるか本人、家族の思いも含めて話し合いをしている。本人の様子等の記録をもとに、医療機関に相談している	契約時に重度化・終末期における指針や対応方法等を説明し、同意を得ている。希望や状況に応じて、施設での看取りが出来るよう、医療機関や看護師職員との連携が円滑に取れるよう体制を整えている。必要に応じて、家族・職員間で話し合いを行い、適切な支援を行えるよう取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルをつくり訓練を実施している		

【千葉県】グループホーム おたがいさま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時マニュアルの作成。定期的な訓練の実施。地域との支援協力体制はとれている	消防署立会いのもと、年2回、避難訓練を実施していると共に、定期的に設備点検を行い、非常時に備えている。訓練では、併設のデイサービスと合同で行う他、夜間等の様々な想定のもと、訓練を行い、必要な知識・対応方法を身に付けている。また、近隣住民とは、運営推進会議等を通じて、協力の呼びかけを行っており、緊急時・非常時の協力体制を構築している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いで感じ方受け止め方が変わってしまう事を踏まえて、その時の状況に応じて対応している	入居者の希望を傾聴し、その人らしい生活の支援に努めている。言葉使いにおいては、個々に合わせて、個人を尊重した接遇に努めている。また、日頃からコミュニケーションを取り、一人ひとりの希望を引き出せるよう工夫している。	現在、個人の尊重・プライバシー保護等に配慮した言葉使い・対応方法に努めているが、今後は、定期的に研修を行う事により、職員全員が知識や理解を深め、入居者にとって更に居心地良い施設作りに努めて頂く事を期待します。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思い、希望を一番に考え選択肢がある時は本人に決めてもらうように支援している		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時に優先順位が職員の都合になってしまう事があるが、職員間で話し合いを持ちできるかぎり利用者様のやりたいことが反映されるよう見直しをしている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人、家族とも話し合い希望を取り入れ季節にあった洋服好みの洋服を着ていただいている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査をもとに、事前に食べたいものを聞き食事づくりを利用者様と一緒に進めている。自然と利用者様の役割分担ができていく	入居者の希望や能力に応じて、準備・片付け・調理等を共同で行っている。食材の買い出しや献立の作成は、日々入居者の希望を確認しながら職員が行っている。また、定期的に外食や特別食の提供を行っており、食に対する様々な楽しみを提供している。	

【千葉県】グループホーム おたがいさま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝夕はカロリー計算された食事を提供。昼食は栄養バランス、見た目の盛りつけ等を考え職員が交代でつくっている。その都度摂取量など確認し記録に残している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯洗浄、歯磨き、歯磨きティッシュ等一人ひとり能力に応じた口腔ケアを実施している		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間は決まってはいるが、本人の排泄サインに合わせてトイレ誘導を行っている。個人の能力に合わせた排泄支援を行っている。	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握した上で、表情を観察しながら、それぞれに合わせた排泄を支援している。夜間においては、ポータブルトイレやトイレ誘導を行い、適切な排泄を行えるよう支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の水分摂取、食事を考え提供している。また体操マッサージ等取り入れている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間態は、だいたい決まってしまう利用者の体調や希望が合わなければ変更したり、中止したりしている	入浴は毎日実施しており、希望に応じて、時間や回数等、柔軟に支援している。必要に応じて、清拭・部分浴・シャワー浴を実施し、入居者の清潔保持に努めている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の睡眠スタイルに合わせて十分な睡眠がとれるように配慮している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬表を参考に職員一人一人解るようになっているが副作用については、正しい理解は不十分である		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味嗜好を尊重しなるべく行えるよう心がけている。		

【千葉県】グループホーム おたがいさま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の思いを尊重し、散歩や買い物等日常的な外出、家族と協力し外食等できるよう配慮している	日頃から散歩・買い物・ドライブ等を実施しており、希望に応じた戸外活動が行われている。また、併設のデイサービスへの参加や施設敷地内でのお茶飲みを実施し、入居者の生活の活性化が図られている。外出活動は、家族が安心できる活動の一つと考え、希望に応じた様々な外出支援を行っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブル予防の為現在現金の預かりは行っていない。個人の買い物がある時は事業所が立て替え利用料の請求書に領収書を添付し請求している		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、知人との電話のやりとりは行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の作品の展示や共有場所の整理整頓に心がけている	施設は、2階建てとなっており、各フロアで入居者の希望に合わせた装飾や掲示を行い、居心地良く生活できるよう配慮している。共有スペースには、ソファやテーブルを配置し、入居者がゆっくりとくつろげるようになっている。また、施設内は、十分な介助スペースが確保されている他、階段には、リフトが設置されており、入居者の安全面に配慮している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の部屋で思い思いに過ごす事もあれば、会話できる共有の場所にできて過ごしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋は本人の思いがあるもの等使っていた物を置いてもらえるよう家族にお願いしている	入居者の希望に応じて、馴染みの物を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。また、絨毯や布団を敷く事も可能となっており、個々の生活歴に合わせた居室作りがなされている。その他にも、エアコン・換気扇が設置されており、適切な空調管理がなされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差や危険と思われる場所には十分注意し、残存機能を維持できるよう可能な限り見守りを行っている。		